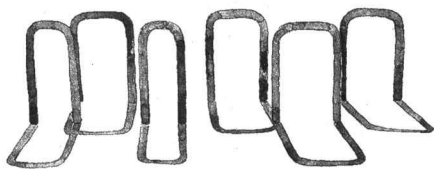
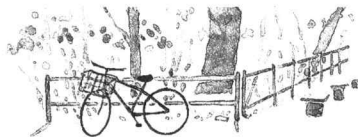


朝日 歌壇 俳壇



〈公園〉 北村さゆり

四月から環境が変わるといふ人はたくさんいるだろう。進学して上京する学生なんかを思い浮かべる。先日、子の進学と夫の単身赴任が重なり二十年ぶりに一人暮らしになるという同僚の話も聞いて、年代によってはそういう変化もあるのかと知った。

出勤の車の中で泣くような春になっても春は好きだな 川上まなみ

『日々に木々とき風が吹いてきて』車で通勤をしているなんて、大人だ

あと思う。チャリンコで遊び回った頃とはもう別人だ。大人が泣いている。仕事でつらいことがあるのだろうか。そりゃあ、ある。嫌になるくらいある。泣いて温まった体で少しだけほんやりしてみる。

浴槽は海に繋がっていません。ただいちばん夜明けに近い。馬場めぐみ

『無数を振り切っていく』新しい日々の中で、眠れずに硬く自分を抱いて夜を過ごすことがあるかもしれない。夜明けの近さを感じる瞬間は、た

だ苦しいだけの無為な時間なのかもしれない。確かなものがない今が、いつたつて怖い。

選ぶとか選べないとかぼぼぼん常に何かを踏んで走るの 『母の愛、僕のラブ』 柴田葵

何かを選ぶことが何かを捨てることだったり、退屈で単調なものが本当は大切だったり、唐突に大事なものが大事じゃなくなったり、嫌だ嫌だと言いつつながら何が続いていたり、風邪をひいたり治ったりしながら、新しい何かが始まっていく日々をこれから私たちは過す。のんびりやっていますましよう。(歌)

「朝日歌壇2025」「朝日俳壇2025」 昨年の「朝日歌壇」「朝日俳壇」の掲載作品をまとめた毎年恒例のシリーズ最新版。「歌壇」は各選者の年間秀歌10選・朝日歌壇賞と総評、「俳壇」は各選者の年間秀句10選・朝日俳壇賞と総評を掲載。ASA(朝日新聞販売所)を通じてご購入できます。(朝日新聞出版・各3080円)

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があります。郵便での投稿は無地のほかが1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104-8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿できます(週に2作品まで)。QRコードから。

思いきりあいつの悪口並べて酒でも呑もうか 女同士で (佐保市) 近藤 福代

粗大ゴミ「いっしょに出したい人がいる」そう言う家族もみないなかり (宮城県) 檀原 渉

☆新しい暮らしの日々が過ぎてゆくちよっぴり辛いキムチチャーハン (富山市) 松田 梨子

あの世なら手ぶらで逝くがとりあえず旅行靴に下着をつめる (東京都) 池崎眞実夫

扁額を左端から読む子たち祠の上のかえでの新芽 (津島市) 中川 晶子

旧姓を呼ばれてすぐに立ち上がりかけた産婦人科の外來 (津市) 大西裕美子

未知数の冬の木立の影纏い悪友もまたはじめの「パパ」 (筑後市) 近藤 史紀

雪解水やがて溢れむ北上の岸辺に高く揺るる皂莢 (多摩市) 豊間根則道

夫への短い短歌に詠み込めば夢にてきて添削をする (岩手県) 島田 好子

戦争はひとりが起こす社会主義民主主義など(関係はなく) (名古屋市) 浅井 克宏

【評】近藤(福代)さん、そう誰か種玉にあげる奴がいたほうが盛り上がるというもの。檀原さん、粗大ゴミと一緒になどと軽口を叩いていた家族ももはや誰もいない寂しさ。松田さんはまだ新鮮な時間のなか。ちよっぴり辛いのも幸せのうち。

アスリートの孤独を想う そんなにも徹底的に友を負かして (流山市) 坂本真衣子

人体模型 つめたい夜を過ごすのに表情筋がついているのね (八王子市) 丸山 和貴

食べられて死んだ先祖もいたろう志まで冷えたウンチの化石 (横浜市) 富尾 大地

途中から大縄跳びに入る 今日から配属の異動先にて (大阪市) 折戸みおこ

風よ吹けふんわりやさしく香らせよ言学校の満開の桜 (京都市) 山口有紀子

看取りケアマンニアル頁をめくるとき指から紙へうつる体温 (神戸市) 松本 淳一

校庭でひとりボールを転がせる猪にもあるや春の愁いは (石川県) 龍上 裕幸

これまでの合縁奇縁ふりかへりフードコートにぼつねんとある (相馬市) 根岸 浩一

食いつがる野党議員のまなざしを切り捨て画面は春場所になる (佐渡市) 藍原 秋子

救助待つ人らのごとく薄氷にてんてんと立つ皇帝ペンギン (稲沢市) 伊藤 京子

【評】一首目、圧勝は友も負かしてしまうこと。孤高だ。二首目、表情筋があるなら泣き顔にもなるのか、と思う。三首目、誰のものだろうか。生存競争の証しのようなウンチの化石だ。四首目、第三句の字足らずに飛び込む緊張感が感じられる。

美容師のネイルアートは春機襟カットするたびキラキラ光る (静岡県) 益子 武子

ボーラーの故障で寒い思いした去年の日記に書き留めてあり (江別市) 長橋 敦

羽を上げ空気を止めて減速し体幹強さサギが降り立つ (福津市) 岩永 芳人

ネクタイをきめて出勤したのだから開花宣言気象庁の人 (横浜市) 桑田よし子

☆新しい暮らしの日々が過ぎてゆくちよっぴり辛いキムチチャーハン (富山市) 松田 梨子

その破顔想像してみたらだ一文「酒」と彫られし墓に眠る人 (町田市) 村田 知子

化学という同じ道を行く孫を見て空でいじがいにぞと笑う (所沢市) 菱沼 志穂

六年生の卒業最後にまたひとつ学び舎消ゆるみちのくの春 (山形市) 佐藤 清光

岩のごと動かぬ夫が草を取り床屋へ行き待つ息子の帰省 (松阪市) 小野多美子

神楽面外せばうつら児童らは汗を光らせ拍手を浴びぬ (下関市) 内田 恒生

【評】第一首、意外なところで春を見つけて新鮮。下句、簡潔で、うまい。第二首、去年の日記を読み返している場面。北海道の冬ならではの記述に注目。第三首、飛んできたサギが地面に降り立つまでを描写して楽しい。

うぐいすの初音初蝶初すみれ妻は我より先に愛でたり (柳井市) 沖原 光彦

春霞ひ東京湾は波しずか行きどころなき油槽船浮く (横浜市) 白川 修

オバマ氏に抱き寄せられた被爆者の森さん逝きぬ核は増えつつ (水戸市) 中原千絵子

人心を壊しにかかる暴言を人間に似た動物が吐く (筑紫野市) 桂 仁徳

あなただけ平和もたらせられるとはあなたがやめれば平和が来る意 (羽曳野市) 玉田 一成

☆新しい暮らしの日々が過ぎてゆくちよっぴり辛いキムチチャーハン (富山市) 松田 梨子

わづかなる段差を注意して貰ふならやられし札を言いつつ (横浜市) 原 整子

少し低くなり始める吾子の声体育館に響く卒業 (奈良市) 山添 聖子

ディナーより思いのたけのお喋りが馳走と知る旅の一日 (高槻市) 藤本恵理子

ラーメン屋さんに直行する男子テスト全教科終わった帰りの (奈良市) 山添 葵

【評】1首目、春の気配に敏感な妻への驚きと敬意。2首目、ホルムズ海峡閉鎖の影響が眼前に。3首目、核抑止に逆行する世界の現状を嘆く歌。4首目と5首目、この「動物」や「あなた」は誰のことでしょうか?というクイズのような歌。

永田和宏選

川野里子選

佐佐木幸綱選

高野公彦選

風信